

血液検査項目の簡単な説明①

2022年2月

	検査項目	測定意義	
肝機能	AST(GOT)	肝臓や心臓に障害があると上昇します。	
	ALT(GPT)	急性肝炎、脂肪肝などで上昇します。	
	γ-GT(ガンマ-GT)	胆道障害、アルコール性肝炎などで上昇します。飲酒の機会が多いと高値を示します。	
	ALP(アルカリフォスファターゼ)	胆道障害、骨疾患で高値を示します。	
	LD(LDH)	肝疾患や心筋梗塞、筋疾患、悪性腫瘍などで上昇します。	
	CHE(コリンエステラーゼ)	主に肝疾患(慢性肝炎、肝硬変など)で低下します。	
	AMY(アミラーゼ)	膵臓や唾液腺の障害により上昇します。	
	T-BIL(総ビリルビン)	黄疸や肝・胆機能障害などの指標となります。	
	D-BIL(直接ビリルビン)	肝臓や胆道に障害があると上昇します。	
心機能	AST(GOT)	心臓や肝臓に障害があると上昇します。	
	LD(LDH)	心筋梗塞や筋疾患、肝疾患、悪性腫瘍などで上昇します。	
	CK(クレアチンキナーゼ)	心筋・骨格筋などの筋肉の障害で上昇します。運動後は上昇します。	
	CK-MB	心筋梗塞などの心筋障害により上昇します。	
	BNP NT-proBNP	心機能・心不全の診断や経過を調べる検査で、心臓に負担がかかると分泌されるホルモンで上昇します。	
	トロポニン T トロポニン I	心機能・心不全の診断や経過を調べる検査で、心臓に障害があると上昇します。	
腎機能	UN(尿素窒素)	腎機能障害、排泄機能の低下で上昇します。	
	CRE(クレアチニン)	腎機能障害、排泄機能の低下で上昇します。	
	UA(尿酸)	痛風と密接な関係があります。	
栄養状態	TP(総蛋白)	血液中の蛋白質の総量です。	
	ALB(アルブミン)	栄養不良、肝臓の異常で低値を示します。	
糖代謝	GLU(血糖)	糖尿病で高値になります。健康でも食後は上昇します。	
	Hb-A1c (ヘモグロビンエーワンシー)	糖尿病の診断、経過観察に用いられ、過去の1~2か月の平均血糖値を反映します。	
脂質	T-CHO(総コレステロール)	動脈硬化性疾患の危険因子を調べる検査です。年齢、性別で基準値が異なります。	
	TG(中性脂肪)	動脈硬化性疾患の危険因子を調べる検査です。健康でも食後は上昇します。	
	HDL-C (HDLコレステロール)	動脈硬化性疾患の危険因子を調べる検査です。一般的に「善玉コレステロール」と呼ばれています。	LDL-Cが高値でHDL-Cが低値の場合、動脈硬化が起こりやすいとされます。
	LDL-C (LDLコレステロール)	動脈硬化性疾患の危険因子を調べる検査です。一般的に「悪玉コレステロール」と呼ばれています。	
電解質 ・ 無機質	Na・K・Cl (ナトリウム・カリウム・クロール)	体液の浸透圧や酸塩基バランスの維持に関与します。腎機能、脱水、下痢などで値が変化します。	
	Ca(カルシウム)	骨の形成や血液凝固に関与します。	
	Fe(鉄)	貧血の原因や白血病などを調べる検査です。	
炎症反応	CRP	急性の炎症や組織の損傷で上昇します。	